

ひかり

Kikuna
Memorial
Hospital
News Letter

vol.82

2014.9

ご自由にお持ちください

● 特集

地域完結型の
医療をめざして

- 健康診断のイエローカード!!
あなたは どうします?
- おくすりのはなし vol.12
- KMH -NEWS-
- KMH -TOPIC-

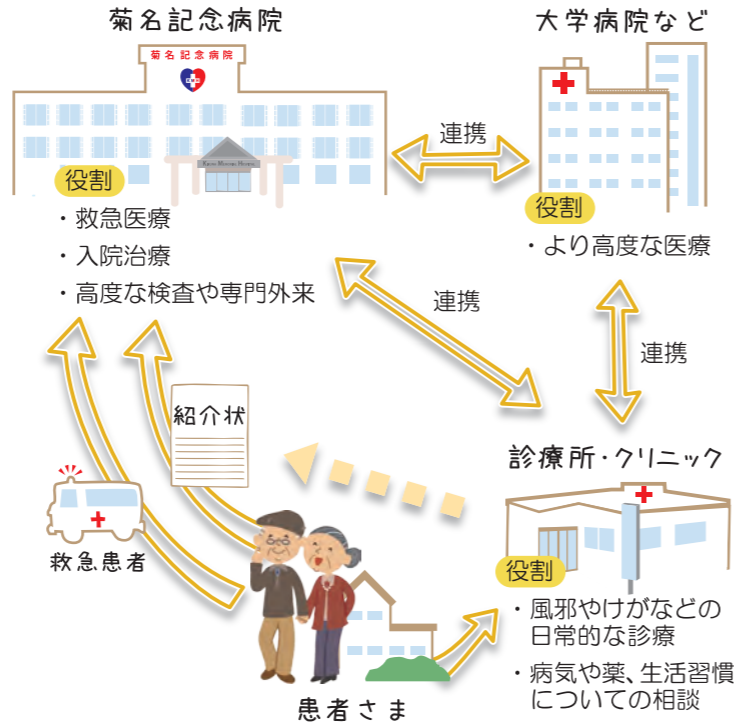
鶴見川 (横浜市)

鶴見川は、古くから洪水氾濫を繰り返す暴れ川として恐れられていました。
昭和 59 年に、第 1 回鶴見川花火大会、港北区綱島で開催されました。

地域完結型の医療をめざして

一昔前は、大きな病院へ行くことで、ある程度の疾患に対応ができ、治癒するまで診てもらえる「病院完結型医療」が中心でしたが、近年、医療技術が高度・細分化しているため、大きな病院でも患者さまの多様なニーズに必ずしも満足な対応ができなくなってしまいました。そこで、患者さまの身近な地域の中で、それぞれの病院や診療所・クリニック等が、その特長を活かしながら役割を分担して、病気の診断や治療、検査等を行い、地域の医療機関全体で1つの病院のような機能を持ち、切れ目の無い医療を提供していこうという「地域完結型医療」が推奨されました。この地域完結型医療の中心的役割を担う基幹病院が「地域医療支援病院」です。

地域完結型の医療提供体制



地域医療支援病院とは？

「医療は地域で完結させる」いわゆる地域完結型医療という国の医療政策に基づき、患者さまは身近な地域の「かかりつけ医」から医療を提供されることが望ましいとされています。そのかかりつけ医に対して、紹介患者さまへの医療の提供や医療機器の共同利用などの支援を行い、地域医療の

充実を図る病院として、都道府県知事より承認された病院を地域医療支援病院といいます。

当院は、平成22年10月に地域医療支援病院の承認を受け、より一層の近隣医療機関との連携を強化するとともに、医療の質とサービスの向上に努め、皆さまに選ばれる病院として、地域医療の貢献を目指しています。

地域医療支援病院の主な承認要件

必要な病床数・施設・設備

218床
(内、特定集中治療室(ICU)10床)

基準
・200床以上
・ICU
・化学・細菌検査室
・研究室、図書室など

紹介患者に対する医療の提供

紹介率 73.2%
(他の医療機関からの紹介患者の比率)

逆紹介率 75.8%
(他の医療機関への紹介の比率)

〈平成26年4月～6月の実績〉

以下のいずれかを達成すること

- ①紹介率80%以上
- ②紹介率65%以上、逆紹介率40%以上
- ③紹介率50%以上、逆紹介率70%以上

救急医療の提供

年間救急車搬入件数
7,308台〈平成25年度実績〉

基準
・24時間の救急患者受入
・救急用自動車配置

地域の医療従事者に対する研修の実施

スキルアップセミナー
〈平成26年7月現在、37回開催〉

基準
・講演会、研修会
・研究会、症例検討会など

勉強会等

施設・機器の共同利用

右ページでご説明

基準
・登録医
・開放病床
・検査予約



医療機器共同利用の実施

近隣医療機関に設置されていない検査等が必要な場合に当院の医療機器を自由に利用していただける体制を整えています。当院は、病院の規模としてはあまり大きくはありませんが、機能性の高さや緊急検査の迅速な対応は、大規模の病院と同レベルであると考えています。このような利便性を活かし、近隣医療機関の先生や患者さまがストレスを感じることなく、検査ができるように心がけています。

共同利用対象機器

- コンピュータ断層撮影装置 (CT)
- 磁器共鳴画像装置 (MRI)
- 上部・下部消化管内視鏡
- 超音波検査
(腹部・心臓・乳腺・甲状腺・頸動脈など)
- トレッドミル
- ホルター心電図 など

検査予約の詳細は近隣医療機関の先生よりお問い合わせください。

TEL 045-402-7111(代) ※患者さまからのお問い合わせは受け付けておりません。

近隣医療機関の先生方より励ましの声をいただいております。

検査予約の際、地域連携室及び画像診断部等に患者様の希望を重視して頂いております。患者様目線の対応に感謝しております。

放射線の診断は他の病院に比べて非常に信頼性が高い。

診断力が早くて、高い。

内視鏡が素晴らしい。鎮静剤の使用は評判が良い。

診察・検査のみでも必ず受け入れて下さり、結果も迅速に頂けており満足しております。患者様にもご満足頂いているようです。

「他の病院より待ち時間が少なくて良い」と紹介した患者様よりお言葉を頂いております。



患者さまへのお願い

当院は地域医療支援病院として、近隣の医療機関との医療連携を促進しており、高度医療設備による検査や入院治療を必要とする方の医療機関となります。したがって当院へご来院される前に近隣の診療所などに受診いただき、患者さまの症状などが記載された紹介状をご持参いただくようお願いいたします。

また、ご通院中の患者さまも、症状が安定している方や軽症で入院を要しない方は、近隣の医療機関をご紹介させていただいております。地域医療の充実を図る役割を担うため、ご理解とご協力をお願いいたします。



地域医療連携室

健康診断のイエローカード!! あなたはどうします?

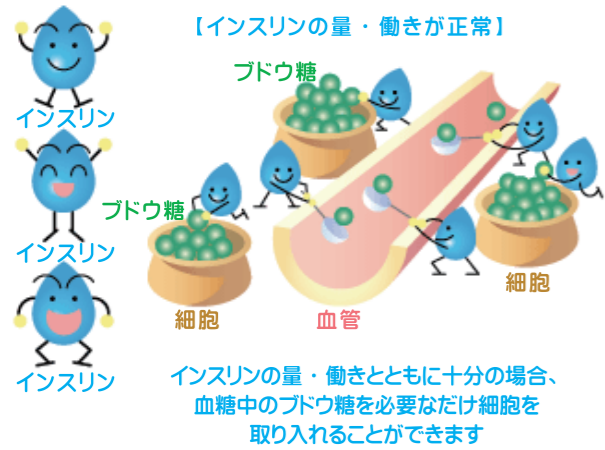
糖尿病になる前に、糖尿病の対策を。



糖尿病内分泌内科
医長 百木 忠久

先日拝見した患者さんです。
5年前の検診で血糖値に異常
があって、再検査したら正常
でした。
でも受診された方は、今では
立派な?糖尿病患者さんです。

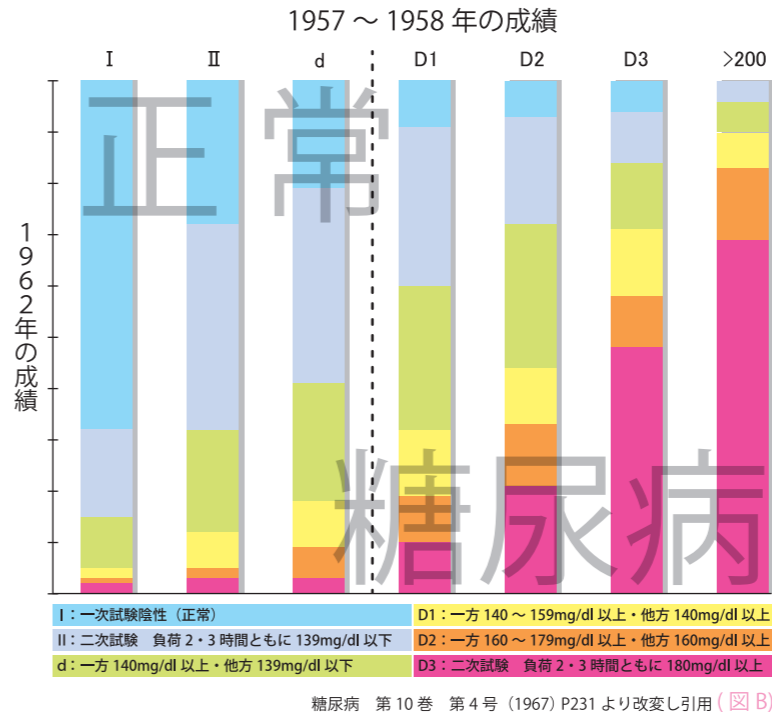
時々、患者さんに「糖尿病という病気を私(百木に)説明してみてください」と質問する事があります。私が医者になった25年以上前には、尿に糖が出る病気との返事が多く聞かれました。最近ですと、血糖値が高くなる病気・インスリンが出なくなる病気といった答えも、返ってきます。もちろん尿に糖が出る病気との返事もありません。血液の糖分、尿の糖分などを調べる事が出来なかった、ほんの100年程前まで、糖尿病は、体が尿に溶け出してしまい痩せ細って死に至る病いととらえられていました。食べても食べても痩せていく現象から、そのように考えたのでしょう。皆さんの「血糖値が高くなる病気」との答えはもちろん正しいのですが、血液検査無しには、血糖値が高くなっていることは判りません。症状で糖尿病に気づいて対応したのでは、この100年の医学の進歩を捨てた事になります。



糖尿病があると・・・

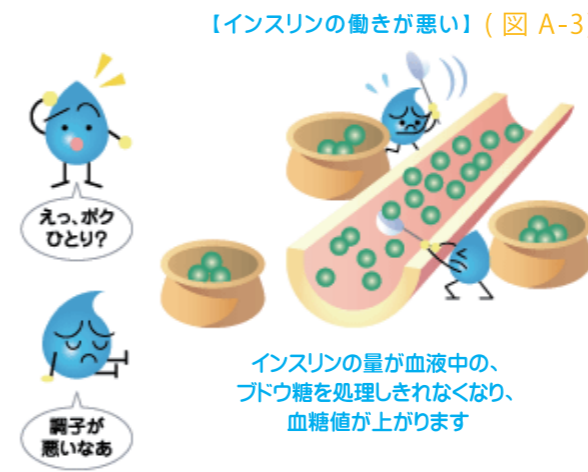
- 健康寿命：15年短縮
- 死亡のリスク：1.8倍
- 心筋梗塞による死亡：2.3倍
- 非心血管死：1.7倍
- がんの発症：1.2倍
- 骨粗鬆症・アルツハイマー病：2~3倍

健康な状態と糖尿病の状態に、明確な境界線はありません。多飲・口渴・多尿といった症状が現れてくる、随時血糖 200mg/dl 以上の状態を糖尿病としています。そして、そのような人の朝食前の血糖値から、早朝空腹時の血糖 126mg/dl 以上も糖尿病の基準と扱っています。正常と糖尿病の間を境界型と呼んでいます。境界型という言葉、皆さんに役立っているでしょうか。



日本の糖尿病診断基準は、1970年以降3回見直されています。1970年の基準作成の参考になった集団検診のグラフ(図B)を示します。十分な朝食をとって、食後2時間の血糖値 140mg/dl 以上あるいは、尿糖 250mg/dl 以上を一次試験陽性として、二次試験を実施。D1～D3を糖尿病と定義しました。検診で異常が出た人には、何らかの指導がされたと思います。残念ながら1957～58年実施の二次試験で血糖 200mg/dl だった人からは、1962年の一次試験で合格者はいません。IIとd、いわゆる境界型からは、悪化した人もいますが、正常化した人も多数みられます。境界型のこの時期に、食事と運動に気をつけると、本格的な糖尿病にならなくてすむと考えられています。

1970年の診断基準を示した論文には、「境界型に属するものに対しては糖尿病を否定することなく糖尿病および糖尿病合併症に関する検索・予防的処置を励行されたい。」と記載があります。検診で境界型、安心して下さいは無いです。



もし糖尿病と診断されるまで、膵β細胞が弱った(図A-3)なら、すぐにでもインスリン治療をしてください。この数年で血糖値が高いこと自体が、インスリンを作る膵β細胞を壊す原因である事が判ってきました。この点をふまえ、以前は病状が進行し、飲み薬が効かなくなってから開始されていたインスリン治療を、最近では真っ先に行うことが提案されています。

以上よりお気づきと思いますが、おそらく多くの皆さんの理解、「糖尿病と診断されたから食事と運動に気をつけよう」というのは、残念ながら、ワンテンポ遅れた対応です。

検診で、境界型のイエローカードを貰ったら、レッドカードを待つ事無く、すぐに行動に移していただきたく思います。

イブニング糖尿病教室を随時開催しております!
Dr. ももきの辻説法『退散!糖尿病』 当院までお気軽にお問い合わせ下さい!

経口補水液について

-おくすりの話 vol.12-

薬剤部 武 宏樹

まだまだ暑い日が続いていますが、最近よくテレビなどで良く目にする経口補水液についてお話をさせていただきます。

その前に、、、
脱水について少しお話しします。

「脱水って体の水分が不足する事でしょ!!」って思われている方が多いと思います。しかし、それだけではないのです。確かに体の水分が不足するのですが、それと同時に体内の電解質(ナトリウムやカリウムなど)が不足した状態のことを脱水と言います。

では、脱水が起きるとどうなるのでしょうか？

脱水は嘔吐・下痢・発熱・発汗過多から脱水が起きます。その後、目の周囲がくぼむ。唇やノドの渇き。手足が冷たく皮膚が乾燥する。頭痛・めまい・立ちくらみがする。などといった症状が起きます。特に、元々水分量の少ないお年寄りや代謝が活発なお子さまは水分が奪われやすいので脱水になりやすいと言われています。

そんなときに、、、
経口補水液の出番です!!

経口補水液は電解質と糖質の配合バランスを考慮することにより水・電解質の吸収を良くした食品となっています。よくテレビなどで宣伝されているのがOS-1ですね。OS-1のような経口補水液はドラッグストアなどで手軽に手に入ります。経口補水液は脱水状態の方の水・電解質の補給・維持に適しています。しかし、飲み過ぎには注意しなければなりません!! 飲用には適切な1日の目安量があります。学童～成人は500～1000ml、幼児は300～600ml、幼児では体重1kgあたり30～50mlとなっています。1日で経口補水液2本を飲むと高血圧患者の1日塩分摂取量の上限6gの半分を経口補水液で摂取する事となります。

特に高血圧、心臓病、腎疾患などを患っている方は注意が必要です。健康の方でも上記の目安量以上を飲むとノドの渇きから始まり、意識の混乱や痙攣・意識が遠のいたりする可能性があります。

OS-1の注意書きには「医師、看護師、薬剤師、管理栄養士の指導に従ってお飲み下さい」と記載されていますので、購入前には必ず我々薬剤師にご相談ください!!



ところで、**経口補水液**を作ってみたくありませんか？

実は言うところ、経口補水液は誰でも簡単に
ご自宅で作れるんです!!

1Lの水に砂糖40g
(大さじ4と1/2)と
食塩3g(小さじ1/2)を
入れて溶かして出来上がりです。



そこにお好みでレモンやグレープフルーツなどの果汁を入れると飲みやすくなります。簡単ですね。一度作ってみてください。ただし、これも先ほどお話しした通り飲み過ぎには注意が必要です。まだまだ暑い日が続くと思いますが、こまめに水分補給をして健康には気を付けて残暑を乗り切りましょう!!



KMH NEWS

菊名記念病院のHOTなニュースをご紹介します

1 NEWS 医局人事 のお知らせ



外科 **宮地 孟**
ミヤジ ハジメ
7月1日付入職
帝京大学出身
菊名記念病院のようにアクティブな病院に就職できて、とてもワクワクしています。体力とやる気はありますが、全力で頑張ります。今後とも宜しくお願い致します。

総合診療科 **宮司 正道**
クワジ マサミチ
8月1日付入職
愛媛大学大学院医学系研究科
初心にかえて頑張りたいと思います。宜しくお願い致します。

2 NEWS 第37回医師および医療従事者のための 7/18 Skill up seminar 開催

京都大学医学部附属病院 循環器内科 助教 静田 聡先生をお招きし、『最新の心房細動治療-NOAC時代を迎えて-』と題し、ご講演いただきました。多数の医療従事者の方にご参加いただき、好評裏に終了いたしました。



3 NEWS 第14回 公開市民講座 7/23 「熱中症を予防しよう!」開催



夏本番を迎え、今回は総合診療科部長 庭野医師が熱中症について講演いたしました。熱中症発症のメカニズムから応急処置、予防法など、生活

に密接した内容となり、皆さんとても熱心に受講していらっしゃいました。

次回 9月25日(木)「食中毒の予防について」
講師：栄養科 諏訪 由希子
お申込み・お問い合わせ 045-401-4964(菊名コミュニティハウス)

4 NEWS “リアルな医療現場を実体験!” 8/7-8 高校生インターンシップ 開催

開催5年目となる今回は、横浜北地区にある県立高校の生徒さん4名が2日間にわたり、体験実習に参加しました。間近で見る医療現場や初めての経験に戸惑いながらも、熱心に取り組んでいました。



手指衛生体験 ベッドの搬送体験 AED救命処置体験

5 NEWS 「糖尿病教室だより」 発行から1年経ちました!

当院では1年に6回、糖尿病教室を開催しています。2013年5月より開催した内容をコンパクトにまとめた「糖尿病教室だより」を院内2カ所にて設置しています。興味がある方は、ご自由にお持ち帰りください。これからも継続して発行してまいりますので宜しくお願いいたします。

設置場所：4F 総合相談窓口横
西玄関 1F 薬剤部窓口横

次回の開催情報は院内ポスターや
当院ホームページをご覧ください。

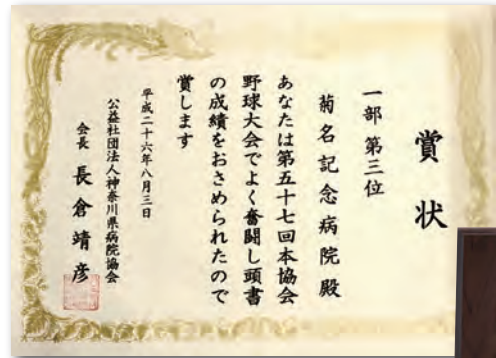




地域交流活動に取り組んでいます

第57回 神奈川県病院協会野球大会1部 3位入賞!

神奈川県病院協会主催の野球大会(1部)にて、当院の野球部が3位に入賞しました。皆さまのご声援ありがとうございました。



平成26年度 港北区自衛消防隊 消防操法技術訓練会

当院からは4名が「消火器取扱操法」部門に参加し、消防技術を競いました。惜しくも優勝は逃してしまいましたが、消防士の方々によるデモンストレーションを目の当たりにして、大変勉強になりました。今後とも防災意識の高い病院で有り続けるために、職員一同努力して参ります。



編集後記

先日、十数年ぶりにプラネタリウムへ出掛けてきました。9月は夏から秋へとちょうど夜空が移り変わる時期だそうですね。夏の大三角や天の川とともに、秋の四辺形が南の空に並んでいます。秋の夜長、たまには天体観察をしながらゆっくりと秋の夜長を過ごすのも良いですね。

季節の変わり目です。お身体を大切にお過ごしください。

広報 遠藤

当院の基本理念

私たちの病院の使命—Mission—

質の高い急性期医療を通して地域社会に貢献します。



日本医療機能評価機構
認定病院 (Ver.6.0)



JQA-CMAI4243
ISO9001:2008
認証取得病院



ピンクリボン運動
を応援します。



地域医療支援病院
菊名記念病院

〒222-0011 横浜市港北区菊名4-4-27
TEL : 045-402-7111(代) FAX : 045-402-7331
URL : <http://www.kmh.or.jp/> E-mail : kikuna@kmh.or.jp